

日本ホスピタリティ・マネジメント学会

趣 旨

私たちは21世紀へ向けて、物質的のみならず精神的にも豊かで快適な社会の形成に努力していかねばなりません。私たちは、その根底をなす理念を「ホスピタリティ」と考え、1992年8月に日本ホスピタリティ研究会（学会設立準備委員会）を発足しました。1996年1月24日には日本ホスピタリティ学会を創立しましたが、その後、1997年10月4日より「日本ホスピタリティ・マネジメント学会」へと発展させ、営利組織・非営利組織のマネジメントを視野に入れた学会活動を展開しております。そして、学会活動の成果として、1999年9月14日に日本学術会議第18期学術研究団体に登録されました。

現在、グローバル化及び情報化にともない、価値観のパラダイム・シフトが起こり、個人と社会の関係に大きな変化が生じております。あらためて人間のあり方が問われるとともに、個人においてはライフスタイルが大きく変わり、産業界においては国境を越えて個人・営利団体・非営利団体間の相互連携が進み、また地方行政においても同様の連携が進みつつ、地域間の相互連携が行なわれ、人間が生きるに値する新たな価値創造へ向かう動きが顕在化してきております。本学会は、このような動向に関する研究を「ホスピタリティ」の研究と位置づけております。

日本ホスピタリティ・マネジメント学会（Japan Academic Society of Hospitality Management）では、「ホスピタリティ」の考え方を基軸に、下記のマネジメント研究を行ない、社会環境・社会システム・組織及び個人の相互繁栄や進化、産業の振興、地域の健全な発展に寄与することを目的としております。

（1）地域産業、地域行政、地域環境、情報通信、レジャー・観光、医療・介護・福祉、教育文化等の分野において、これらの社会システムを構成する個人・営利・非営利団体間の相互交流・相互連携を重視する「ホスピタリティ」の視点からマネジメントの研究を行なう。

（2）組織関係者相互の力を活かし合う快適な環境を整備し、社会が評価する新たな価値を創造するマネジメントの研究を行なう。

（3）組織関係者が相互関係を築き、相互作用を促進し、相互補完を行なって、プラスの相乗効果を生み出すマネジメントの研究を行う。

（4）個人と組織の相互関係において、個人及び組織が新たな価値創造を行なうことにより、社会のより良い変化・進歩・発展に寄与できるマネジメントの研究を行なう。

本学会では、「ホスピタリティ」をマネジメントする視点に立ち、「ホスピタリティ・マネジメント」に関する全国大会、コンベンション、研究会、フォーラム、シンポジウム等の開催、学会誌や学会報の刊行などを通じて、学術的進歩に貢献するとともに、広くホスピタリティ・マネジメントの普及・啓発活動を推進しております。

今後は、さらに学術的な研究の場を整えて、さまざまな分野の方々が相互に交流し啓発し合える環境を整備して参りたいと考えております。